

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

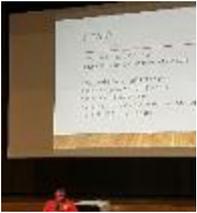
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 山口県立西京高等学校 】

1 実践テーマ	(I)・II・(III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	①オリンピック招聘（体育コース1～3年生 男子：78名、女子：39名） ②パラバドミントン（体育コース2年生 男子：26名、女子：13名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体 育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	東京オリンピック・パラリンピックの開催にあたり、子どもたちが「する」「みる」「支える」「知る」の多様なスポーツへの関わりを通じて、生涯にわたってスポーツに係る資質と能力の育成を図り、運動の意義や価値などの理解を深める。
5 取組内容	<p>1 <u>オリンピック招聘：東京オリンピック（水球女子）日本代表 河口華子 氏</u> 本校（体育コース）出身の河口氏を招いて、講話をいただいた。水球という競技の特徴の紹介や東京オリンピックの時の話、そして、『夢を実現させるために』というテーマでご自身の経験談や将来の目標設定についてなど、話していただいた。</p>  <p>2 <u>パラリンピック種目体験：車いすバドミントン 大浜 真 氏</u> [講話] 大浜 あつ子 氏、大浜 三平 氏により、パラスポーツ（パラバドミントン）の歴史と変遷についての解説があった。貸し出し用の競技用車いすの更なる普及が望まれることや、パラスポーツに対する意識やマイナスのイメージを払拭したいとの話があった。ちなみに山口県では貸し出し用の競技用車いすは山口県保有は2台ということであった。 [実演・体験] 大浜 真 氏による車いすバドミンントンの実演、体験を行った。まずは実際に車いすに乗ってみて、車いす鬼ごっこを体験した。操作にも慣れてきて、実際にパラバドミンントンの体験へと移っていった。車いすとラケットの操作を同時に行わないといけない状況に、生徒たちは困惑しながらも興味を持って意欲的に取り組んだ。</p> 

<p>6 主な成果</p>	<p>オリンピック出場選手の実際の体験談などを聞くことで、生徒自身のアスリートとしての目標達成の手立てや今後の取り組みのモチベーションアップにつながったと感じる。</p> <p>車いすバドミントンでは、経験したことのない競技を体験する中で、様々なスポーツに対する新たな視点の獲得に役立ち、スポーツへのかかわりについて生徒たち自身が考えるきっかけとなった。</p>	
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>実際のオリンピック選手、しかも本校体育コースの卒業生である選手の話ということで、全学年の体育コース対象に講演を視聴した。</p> <p>車いすバドミントンでは使用できる車いすの数にも限りがあることから、2年生体育コースのみの体験とした。(3年生は昨年体験済み。来年度は現1年生が体験予定)</p>	
<p>8 主な課題等</p>	<p>講師の方との日程調整および、学校授業変更等に苦慮した。</p> <p>車いすの調達については、山口県障がい者スポーツ協会のご尽力により3人に1台の割合で準備していただいたが、2人に1台の割合で車いすがあると、より体験の幅が広がったのではないかと感じる。</p>	
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>東京大会後こそ、オリンピック招聘を拡充し、講演や体験を実施できればと考える。選手たちの実際の声、そして触れ合うことで、子どもたちの将来に大きな好影響を及ぼすことは容易に想像できる。本事業が継続されるのであれば次年度以降もぜひ効果的・有効的に活用させていただきたいと考えている。</p>	 